

資料1 第2期岡崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和3年度KPI実績一覧表

| 分類 | 取組の柱 | 主な事業 | 内容 | 2021年度KPI | 実績 | 達成 | 進捗状況評価 | 課題及び今後の方針等 |
|----|----------------|-------------|---------------------------------|------------------------------|-----------|----|---|--|
| まち | 中心部民間投資誘導 | 東岡崎駅周辺地区整備 | 誰もが使いやすいにぎわいの交流拠点としての2期整備推進 | 既設鉄道施設の照査、線路詳細設計等の実施 | 着手 | ○ | 名古屋鉄道株式会社と南北自由通路及び橋上駅舎の整備に伴う詳細設計の施行について合意し、協定を締結した。 | 橋上駅舎、南北自由通路、バスターミナル、駅ビルの一体整備に向け橋上駅舎、南北自由通路を整備する交通施設整備事業、バスターミナル、駅ビルを整備する市街地再開発事業を推進する。 |
| | | QURUWA戦略推進 | 乙川リバーフロント地区における民間投資の誘導促進 | 民間事業者による公共空間活用回数220回 | 725回 | ○ | 公共空間が民間事業者により計画どおり活用された。 | さらなる公共空間の活用とQURUWA地区に適した利用を促す。 |
| | 周辺部・山間部民間投資誘導 | 各区画整理推進 | 住宅需要に対応する各区画整理事業の推進 | 新規住宅着工件数9件 | 27件 | ○ | 岡崎駅南地区の基盤整備の進捗が予定より進んだため、目標値を上回った。 | 引き続き土地区画整理事業の推進と、早期の使用収益開始を支援していく。今後は、鉄道駅周辺での良好な住宅供給を進めることが必要である。 |
| | | 本宿駅周辺基盤整備 | アウトレットモールを核とした東部地域のまちづくり推進 | 民間事業者による道路設計の支援 | 実施 | ○ | 民間事業者による道路設計の支援をした。 | 民間事業者による用地取得の支援をしていく。 |
| | | 阿知和地区基盤整備 | 工業団地造成に伴うスマートインター等の基盤整備 | 南アクセス道路橋梁下部工事実施 | 実施(右岸側完了) | ○ | 南アクセス道路橋梁下部工事(右岸側)を実施することができた。 | 引き続き、工業団地造成に伴う道路整備を実施していく。 |
| | | 中山間地域投資誘導 | 中山間地域における投資誘導に向けた担い手獲得・関係人口獲得 | 地域おこし協力隊採用人数1人 | 1人 | ○ | 2021年10月から地域おこし協力隊を1名採用し、額田地域の魅力発信等に取り組んでいる。 | 中山間地域の活性化を推進するために、地域と連携して具体的な活動へと進めていく必要がある。また、地域も多様であるため、さらに1名採用し、活動に取り組んでいく。 |
| | 拠点をつなぐネットワーク構築 | 鉄道駅バリアフリー化 | 1日の平均利用者数が3,000人以上ある鉄道駅のバリアフリー化 | 岡崎公園前駅誘導ブロック等設置工事補助実施 | 完了 | ○ | 岡崎公園前駅誘導ブロック等設置工事補助を実施することができた。 | 引き続き1日の平均利用者数が3,000人以上ある鉄道駅のバリアフリー化を図っていく。 |
| | | 新たな交通システム導入 | 地域の実情に応じた移動手段の確保策の導入 | 高齢者パス利用件数1,000件 | 2,055件 | ○ | 対象期間の延長をしたことで、目標値を大きく上回ることができた。 | さらなる利用促進を行うために、対象期間の延長や負担額の増額を検討していく。 |
| | | 道路ネットワーク整備 | 都市計画道路等、道路ネットワークの整備 | 矢作川右岸南北道路整備延長160m | 160m | ○ | 計画どおり事業の進捗が図れている。 | 事業関係者との調整を密にとるなど、引き続き事業進捗を図っていく。 |
| | 都市の強靱化 | 雨水対策推進 | 雨水対策の公共整備促進や市民・民間事業者による対策促進 | 特定事業における流出抑制指導適合率100% | 100% | ○ | 事業後の流出が増加しないよう適切な指導を行い、浸水被害軽減へ向けた対策を促した。 | 令和4年度より、浸透枳支給制度の対象が広がったことから、協議時に対策不要となった事業についても設置促進を図りたい。 |
| | | 地震対策推進 | 地震対策の公共インフラ耐震化や市民・民間事業者による対策促進 | 大規模盛土造成地の変動予測調査における現地踏査100箇所 | 100箇所 | ○ | 目標通り大規模盛土造成地の変動予測調査における現地踏査を実施した。 | 引き続き大規模盛土造成地の変動予測調査における現地踏査を進める。 |
| | 持続可能な循環型社会の構築 | 地球温暖化対策の推進 | 株式会社さくら電力との連携により、低炭素化社会を実現 | 高圧受電市公共施設への電力供給率 100% | 100% | ○ | 全ての高圧受電市公共施設への電力供給を開始でき、更に、低圧市公共施設への電力供給を開始することができている。 | 株式会社岡崎さくら電力と相対契約を結ぶ独自電源を増やし、低圧受電市公共施設への電力供給を広げていく。 |
| | | 農業畜産業収益性向上 | 6次産業化や集約化などによる農業の収益性向上 | 岡崎おうはん地鶏(肉・卵)の新商品開発数10件 | 14件 | ○ | ブランド化推進計画に基づき、生産部会において飼育マニュアルの作成、商品開発・PR部会において目標を上回る新商品の開発を行った。 | 「岡崎おうはん」の販路開拓、PR活動の強化を図り、ブランド構築のための取組を実施する。 |
| | | 林業地域商社連携 | 新たに設立される地域商社と連携して森林の多面的機能保全 | 地域商社の設立 | 設立 | ○ | 目標どおり地域商社の設立がされた。 | 市産材や市産材を使った製品の販路の拡大をしていく。 |

※「達成」欄が×となっている事業のうち網掛けになっている事業については、新型コロナウイルスの感染拡大による事業の中止等の影響が未達成の主因であるもの

資料1 第2期岡崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和3年度KPI実績一覧表

| 分類 | 取組の柱 | 主な事業 | 内容 | 2021年度KPI | 実績 | 達成 | 進捗状況評価 | 課題及び今後の方針等 |
|----|------------|----------------|-------------------------------|--------------------------|--------|----|--|--|
| ひと | 活躍支援体制構築 | 重層的支援体制整備 | 地域共生社会実現に向けた支援体制の整備 | 若者相談窓口新規開設 | 開設 | ○ | 令和3年4月に若者相談窓口を開設し、7月から専門相談を開始した。 | 令和4年度に若者相談窓口を拡充し、子ども・若者総合相談センターを開設する。 |
| | | 岩津地域活動拠点整備 | 既存施設の機能を併せ持つ新たな岩津地域の活動拠点施設整備 | 前面道路交差点改良工事着手 | 未着手 | × | コロナ禍により、事業の実施が延期されたが、令和4年8月に施工業者の決定、契約を予定。 | 道路改良工事を完成させ、拠点施設の整備に向け、利用者や地元の意見聴取を進め、整備施設の検討を進める。 |
| | 子育て環境整備 | 保育定員拡充 | 保育園新設や私立幼稚園の認定こども園化で保育定員拡充 | 令和3年度定員110人増加 | 109人増加 | × | 保育所の新設(定員200人)に伴い、3年間に分けて段階的に利用定員を拡充する予定である。当年度は0～3歳児の受入れを行い、入所児童の年齢毎の傾斜等を検討した結果109人となった。 | 保育所の建替等に伴い、保育の需給バランスに応じて定員の増加等を図る。 |
| | | 放課後児童の居場所拡充 | 育成センター増設や児童クラブ支援で留守家庭児童の居場所拡充 | 支援対象児童クラブ2クラブ増加 | 2クラブ | ○ | 受入人数の増加が図られ、留守家庭児童に安全安心な居場所が提供され、保護者が安心して仕事ができる環境を提供できた。 | 公設民営による児童クラブの設置、民間児童クラブへの助成等、民間事業者の参入を促進し、児童の放課後の居場所を確保していく。 |
| | | 子育て情報発信強化 | 子育て支援サービスの情報発信力強化 | すくすくメール登録件数100件増 | 17件増 | × | 出生数の減少等の理由により、目標を達成することはできなかったが、周知を図ることで登録者数を増加させることができた。また利用者からは高評価を得ることができた。 | 利用者の評価が高いことをPRし、周知に努めていくと同時に、父親へのPRを推進する。またR4年7月から子育て世代に身近なLINEを活用することで、より広く、より便利に情報を届けていく。 |
| | 多様な活躍の基礎充実 | 新しい時代の教育環境整備 | 今後の多様な学びに対応できる30人学級等の教育環境整備 | 水泳モデル授業(民間スイミングスクール)2校実施 | 2校 | ○ | モデル校2校の実施から、①児童生徒の泳力向上、水泳に対する興味・関心の向上②教職員の施設整備の維持管理における負担軽減③保護者の安心面の向上等が認められた。 | 年間カリキュラムの変更、調整が必要であることや安定、継続した水泳授業の受け入れ先の確保が課題である。モデル校2校は、民間委託には肯定的であることから、水泳指導の民間委託事業は拡大する方針である。 |
| | | ダイバーシティ教育推進 | 子どもの特性・多様性を認め、伸ばしていく教育の推進 | 校内フリースクール8校拡充 | 8校 | ○ | 学校や学級に足が向かなかった生徒が、校内フリースクールでの生活を通して、学校復帰や学級復帰につながっている。生き生きと活動する様子が見られ、生徒の健全育成の面から大きな効果が得られている。 | 運営上の課題はないものの、全国的に見て不登校児童生徒が増えている昨今において、今後、校内フリースクールでの生徒数の増加に耐えられる教室の確保。校内フリースクールによる効果が非常に高いことから、中学校全校への設置及び大規模小学校への設置。 |
| | | スマートウェルネスシティ推進 | 健康づくりとまちづくりを融合して行う事業の推進 | ウォーキングアプリ累計登録者数5,000人 | 7,894人 | ○ | コロナ禍によりウォーキングイベントが開催できない中にも登録者数が伸びたことは、個人の健康づくりの意識の高まりを感じる。 | アプリ登録キャンペーンを開催することで、登録者数をさらに伸ばしたい。その上で、健康情報ツールとしての活用を推進していく。 |

※「達成」欄が×となっている事業のうち網掛けになっている事業については、新型コロナウイルスの感染拡大による事業の中止等の影響が未達成の主因であるもの

資料1 第2期岡崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和3年度KPI実績一覧表

| 分類 | 取組の柱 | 主な事業 | 内容 | 2021年度KPI | 実績 | 達成 | 進捗状況評価 | 課題及び今後の方針等 |
|----|-------------|---------------|--------------------------------|---------------------|-------------------|----|--|---|
| まち | ものづくり産業集積 | 阿知和地区工業団地造成 | 阿知和地区にて新規工業団地を造成 | 防災対策工、埋蔵文化財発掘調査実施 | 実施 | ○ | 防災対策工、埋蔵文化財発掘調査を実施した。 | 設計図の作成、埋蔵文化財発掘調査を完了する。 |
| | | 産業立地誘導地区開発推進 | 工業団地造成事業で対応できない立地希望企業誘致・市内企業留置 | 新規工場立地件数1件 | 1件 (産業立地誘導地区内) | ○ | 立地に至るまでには様々手続があり多くの時間を要する。立地に係る相談件数は多数受けており今後も立地につながるものとする。 | 産業立地誘導地区内のインフラ整備を行い立地を促す。また、立地相談から立地に至るまでの伴走支援を確実に実施する。 |
| | 商業・コンテンツの集積 | スポーツツーリズム推進 | 国際大会等を誘致・開催し、誘客と裾野を拡大 | 誘客スポーツイベント開催件数3件 | 4件 | ○ | 新型コロナの影響で、当初の計画から縮小開催となったイベントもあるが、目標を上回ることができた。 | 市民のスポーツ意識の向上を図るとともに、地域の活性化を目指した、新たなスポーツイベントのあり方を検討していく。 |
| | | 観光おもてなし推進 | 観光客受け入れ環境の整備や観光おもてなし人材養成の推進 | 民間体験型観光コンテンツ開発件数3件 | 1件 | × | コンテンツ開発のための相談自体は7件あったが、コロナ禍においてインバウンド需要が不明であったこともあり、プログラム完成には至らなかった。 | 令和3年度中の完成ができなかったものについても、令和4年度のプログラム化を目指し、引き続き準備していく。 |
| | | ナイトタイムエコノミー推進 | 夜間観光消費額の拡大に向けたまちの魅力創出 | ナイトマーケット出店件数200件 | 478件 | ○ | 乙川河川緑地で定期開催している乙川ナイトマーケットは、新型コロナウイルス感染症の影響により開催件数が減少している一方で、継続的に開催することによって知名度が向上し、1開催あたりの出店事業者数は増加傾向にある。 | ナイトマーケットの行列解消により広大な敷地を有効活用する。また、来場者の駐車場が周辺に不足していることから、特PやPPParkの案内を行っていく。 |
| | 産業人材・技術の集積 | ものづくり共創支援 | スタートアップ・エコシステムの構築を推進 | 提案を受ける共創アイデア件数2件 | 0件 | × | 市内企業による共創アイデアの発掘を行う前段階としての取組に力を入れた。共創イノベーション推進戦略を策定し、「共創セミナー」を実施することにより、「共創イノベーション」による新しい価値の創出に対するものづくり事業者の機運醸成を図った。 | R3年度に培った共創志向の実現に向けて、伴走支援やイベントを実施し、具体的なアイデアの創生につなげる。その際には、「共創セミナー」への参加実績のある事業者を中心に参画を促していく。共創に興味のある市内ものづくり事業者の発掘が課題となっているため、今年度は地域の金融機関やオカビズ等と活用した発掘を検討している。 |
| | | 創業・多様な働き方支援 | 康生地区内における未利用不動産の活用 | 空き物件・創業関連セミナー開催件数4件 | 4件 | ○ | 空き物件ツアーや新規創業者を増やすためのワークショップを行うことで、未利用不動産の活用が進んだ。 | 空き物件の情報整備を行い、未利用不動産の活用を促す。 |
| | | 社会人の学び直し環境整備 | 市の特性を活かした新しい時代の働き方を推進 | ワーケーション試行参加者数10人 | 43人 | ○ | 「地域イノベーション交流会」を開催し、地元企業、全国展開している企業の岡崎支店・支所や大学・NPO関係者などが参加した。交流会の中でも特に「焚火トーク」は参加者からの高い満足度を得、岡崎市や市の取組に対する興味・関心を強化することができた。 | ワーケーションや地方移転に関心のある企業とその社員を対象に、地域観光型企業向け研修を商品化する。企業向けにすることで、ビジネスマッチングだけでなく研修に伴う消費額の増加を狙い、岡崎市の観光資源や地元食材を紹介することで、岡崎市に興味を持つきっかけ作りに資する。 |

※「達成」欄が×となっている事業のうち網掛けになっている事業については、新型コロナウイルスの感染拡大による事業の中止等の影響が未達成の主因であるもの

資料1 第2期岡崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和3年度KPI実績一覧表

| 分類 | 取組の柱 | 主な事業 | 内容 | 2021年度KPI | 実績 | 達成 | 進捗状況評価 | 課題及び今後の方針等 |
|----------|-------------|--------------|-------------------------------|--------------------------|--------------------------|----|---|--|
| パートナーシップ | 民間事業者連携体制構築 | 連携プラットフォーム構築 | 公民連携相互提案プラットフォームの構築 | テーマ型提案事業の採用件数3件 | 1件 | × | 試行事業として、担当課が課題としていた「男性の家事参加促進」をテーマとして、選定した住宅設備メーカーと連携しショールームを利用した料理教室を開催し、従前よりも高い成果を得ることができた。 | 公民連携取組方針にある「市場開拓」によりつながるような連携の在り方を、また、幅広く多くの企業から提案を得られるような周知策やプラットフォームの運用の在り方を見出すため、引き続き民間提案制度及びプラットフォームの試行を行い、年度内の構築を目指す。 |
| | 市民意見集約体制構築 | 市民意見交換手法構築 | 市民と意見交換をする手法の構築 | 意見交換手法の構築 | 構築 | ○ | 「岡崎市市民参加型市政の推進に関する指針」を策定し、「市民参加型市政ポータルサイト」を運用して、市民の声を取り入れる手法を構築した。 | 構築した手法に則り、継続して市民の声を取り入れていく。 |
| | | 市民意識調査手法構築 | 市民意識調査アンケートの刷新 | アンケート送付5,000人、回答者数2,800人 | アンケート送付5,000人、回答者数3,028人 | ○ | 第7次総合計画の10の分野別指針に沿って、本市の取組の満足度・重要度等を調査した。 | 今後も定期的に市民意識を調査することで経年変化を把握するとともに政策検討の参考とする。 |
| | 他自治体連携推進 | スマート自治体推進 | スマート自治体推進を通じた他自治体との連携推進 | スマート自治体の国モデル事業採択件数1件 | 4件 | ○ | 国土交通省・総務省によるスマートシティ・スマート自治体の採択を受け、人流データの活用や、ビッグデータを活用したドラマ館来客者数予測など、各種先進事業を実施した。 | 継続してスマートシティ・スマート自治体の国モデル事業へ取組む。 |
| | | 広域防災推進 | 災害予測シミュレーション結果共有等で周辺自治体との連携推進 | 災害予測シミュレーションシステムの構築 | 完成 | ○ | 民間資金・ノウハウを活用し、試験用システムを構築することができた | 試験用システムを実証実験し、予測シミュレーション結果を評価する |
| | | 広域山村振興 | 山村振興を通じた他自治体との連携推進 | 連携イベント開催回数1回 | 1回 | ○ | 目標どおり、公益財団法人「矢作川水源基金」、幸田町と連携し、治水や水資源について小学生が学ぶイベントを開催した。 | 今後も他自治体と連携し、イベントを開催していく。 |

令和3年度KPI 全36指標のうち、達成30指標
未達成6指標

※「達成」欄が×となっている事業のうち網掛けになっている事業については、新型コロナウイルスの感染拡大による事業の中止等の影響が未達成の主因であるもの